

議事等	議事要旨
建設部長挨拶	以前と比べて雨の降り方が変わっている。気候変動による降雨量の増加、海面上昇による水害の頻発化、激甚化が懸念されている。気候変動を考慮し、排水対策基本計画の見直しが必要となっている。スケジュールの見直しについてもお願いしたい。
議事説明	【事務局より 1)～5)の説明】 1) 目的とスケジュール 2) 第1回検討委員会の意見等 3) 浸水解析結果から得られる浸水特性 4) 問題と課題 5) 方針と目標の考え方
質疑応答 委員会の開催数	委員長) シミュレーションを追加(国のモデル、市のモデル)するため、委員会の回数を増やすとのことであるが、国のシミュレーションというのはどのようになっているのか。 古賀委員) 主要な河川や水路をモデル化した内外水氾濫解析モデルを用いた浸水対策のシミュレーションである。細かな排水路まではモデル化していないが、これまでの雨でどのように浸水したのかをまずは分析している。シミュレーションでは氾濫流が北から南、西から東の方向へ流れることがわかってきており、時間ごとに分析してどういう対策がよいかを検討している。 委員長) 委員会の開催は回数を増やし合計 5 回を想定する。
浸水解析結果	委員長) 佐賀市は長期対策を実施しても、それでもなお、浸水が残ることが確認された。また、浸水面積が大きく変化するような降雨規模は確認できず、浸水が広域的に発生すること、浸水が残る箇所は窪地であり、解消が難しいことが説明された。 森委員) 巨勢川調整池付近は長期対策後も浸水リスクがあるとみてよいのか。 事務局) 今後の対策により浸水リスクは軽減されるが、既往最大降雨の 110mm/h に対しては浸水リスクが残る。 森委員) 今後の対策にはどのようなものがあるのか。 事務局) 長期対策など現在の排水対策基本計画の各対策については、後日示す。 (⇒第1回検討委員会資料を参照) 委員長) 浸水面積や浸水家屋戸数などは、短期対策前からあるとよい。浸水継続時間について松原二丁目は対策前後であまり差がないが、地形的な理由があるのか教えていただきたい。また、建物用地の浸水面積について降雨強度がさらに大きくなっても直線的に増加するのか、細かくみると地域ごとに違うのではないのか。 事務局) 資料をもって示す。今後はブロック別にこういう対策をとったらどうなるのかという解析を行い、結果を委員会の中で示していきたい。 委員長) 降雨波形はどうなっているか。 事務局) 計画降雨 64mm/h はモデル波形、110mm/h は令和元年の実績波形である。 委員長) 短期対策後の令和元年の時、成章町では 80cm くらい浸かっていた。資料では中期対策前期後で 45cm まで低減している。対策前の結果を提示することで、これまでの対策の成果をアピールできると思われる。 事務局) 佐賀駅は頻繁に浸水してきたが、大幅に浸水は軽減している。対策前と比べての短期対策の効果も示していく。 委員長) 今後どういうところをより詳しく検討していくか予定はあるか(国のシミュレーション)。 古賀委員) 地形要因をふまえ、ブロックを分けて浸水要因など分析し、対策を考えていきたい。

問題と課題、
方針の目標など

委員長) どのような雨に対してどこまでを目指すのか各委員の意見を伺いたい。

古賀委員) 気候変動を踏まえることは重要である。令和元年8月の実績である110mm/hへの対応は規模が大きくなり難しいことも考えられる。ハード整備などの検討と合わせて、まちづくりの工夫での対応など考える必要がある。計画の目標としては、水を逃がし、まちの機能を麻痺・停止させないことが大切ではないか。

熊井委員代理) まちづくりとリンクさせて、駅周辺など守るべきところを守る。そういうところに水を集めないことが大切。また、佐賀市は地下水位が高いため、溜められる場所か否かに留意して計画を立てる必要がある。

武藤委員) 土地利用を見る必要はあるが、大和町や久保田町の対策も必要ではないか。計画の目標設定については、浸水深、継続時間、浸水面積は関連するので、現計画からどのように上乗せしていくのかは具体的な数値を見ながら検討してはどうか。

満石委員) 市街地の河川改修は難しいので調整池などの溜める対策を進め、まずは現行計画の64mm/hに対して、重点的に実施していくことが優先になると思う。

森委員) 方針と目標に関し、流域治水としてすべての関係者の取組みが重要。佐賀駅周辺、市街地を守るということで、周辺のクリークにおいて事前放流や、田んぼダムなどに取り組んでいるが、農業者からは不満の声もある。河川改修も限界がある中、農地がダムの働きもあるため農地を守る視点も重要。土地の嵩上げといった市民の自助努力も必要である。

平野委員) 諸富は石塚ポンプ場ができて安心して暮らせるようになった。ポンプ排水は重要。

式町委員) 農地が宅地となることで浸水がどうなるかは確認したい。ハウスメーカーなど民間とも一緒に取り組んでほしい。

江頭委員) 水路の拡幅は難しいとあるが、浚渫などはできないか。流れを妨げている箇所を浚渫をすれば窪地の被害も軽減できると思う。

小城原委員) 河川清掃は高齢化により大変になっている。水量が減って、土砂が堆積し川底があがっている。浚渫が必要だが浚渫すると護岸が崩れる。ここが流れれば解消するといったことを示してもらえると河川清掃もやりがいがある。

委員長) どういうところが流れが悪いのか把握して河川清掃をすると効果的で、それだけで気候変動対策になるかもしれない。

ナルモン委員) 中期(後期)対策、長期対策についてはどのように考えているのか。目先の対策でも見直した方が良いものはないのか。

委員長) 中長期対策に追加される対策はあるのか。

事務局) 市街地は流す対策が難しく、溜める対策の方が効果の発現が早い。ブロック別に溜める対策を検討していきたい。水路拡幅が難しい箇所は溜める対策に置き換えるということも考えている。

委員長) 当初の目標である64mm/hを基本として、今後の気候変動対策も検討していく。河川や水路だけでなく、まちづくり、都市計画などを踏まえた流域対策が必要。農地だから溜めるではなく、あらゆる関係者の協力が必要。皆が納得できる治水、防災・減災を進めていく。クリークの通水能力が低下して河床があがっているので、計画的な浚渫をお願いしたい。窪地は土地利用やまちづくりの点から考えていくことがよい。

鈴木委員) 市民にわかりやすい目標を意識することが大事であると考え。また、これまでの対策の効果も示していきたい。

委員長) 本日の意見を踏まえて事務局にはさまざまなシミュレーションを実施していただきたい。委員の皆様には、計画の目標について対象となる降雨を選定し、どこまでを目指すのかを検討していただきたい。次回は目標の決定と具体的な対策の選定となる。